

ティーチング・ポートフォリオ

松尾 智則 (Tomonori Matsuo)

中村学園大学短期大学部

幼児保育学科



11C H. Iさん作



2012年3月29日

目次

1. 教育の責任	4
2. 教育の理念	5
1) 期待する学生	
2) 学生の学習の成功を支援するための私の教育上の配慮	
3) 養成課程の範囲を越えた教育の理念実現のための活動	
3. 教育の方法	6
4. 教育の実践	7
1) 教育の理念①②を実現する実践として	
2) 教育の理念③を実現する実践として	
3) 教育の理念④を実現する実践として	
4) 教育の理念⑤を実現する実践として	
5. 教育の成果	8
1) 学生による授業評価	
2) 同僚による授業参観のコメント	
3) 学生の授業考察（まとめ）の例	
4) 学生のコメント	
6. 教育改善のための取り組み	10
1) 授業改善のための取り組み	
2) その他の学内の取り組み	
3) 学外の教育活動への取り組み	
7. 今後の目標	11
1) 短期の目標	
2) 長期(2年間)の目標	
8. 添付資料	12
1-1 幼児保育学科の教育目標	
1-2 教育学部の教育目標	
1-3 進学情報誌(ベネッセ)による4年制大学・短期大学の位置づけ	
1-4 高等教育人口の推移	
1-5 シラバス	
①教育原理A 2009 幼児保育学科	
②教育原理A 2009 幼児保育学科	
③教育方法学 2011 人間発達学科	

- ④人間発達論Ⅱ 2009 人間発達学科
 - ⑤短期大学部教養講座 2011 食物栄養学科
 - ⑥短期大学部教養講座 2011 キャリア開発学科
 - ⑦保育・教職実践演習（幼稚園） 2011 幼児保育学科
 - ⑧保育経営論 2011 人間発達学科
 - ⑨幼児教育課程総論Ⅱ 2011 人間発達学科
 - ⑩幼児指導方法論 2011 幼児保育学科
 - ⑪幼児保育基礎セミナー 2011 幼児保育学科
- 5-1-1 授業評価アンケート
- ①教育方法学 2011 人間発達学科
 - ②幼児指導方法論 2011 幼児保育学科
 - ③教育原理A 2010 幼児保育学科
- 5-2-1 同僚による授業参観のコメント
- ①幼児指導方法論 2011 幼児保育学科
 - ②教育方法学 2010 人間発達学科
 - ③教育原理A 2010 幼児保育学科
- 5-3-1 学生の授業考察（まとめ）の例
- ①幼児教育課程総論B 2011 人間発達学科
- 5-4-1 学生のコメント
- ①幼児指導方法論 2011 幼児保育学科
 - ②教育方法学 2011 人間発達学科
 - ③幼児教育課程総論B 2011 人間発達学科
 - ④短期大学部教養講座 2011 キャリア開発学科
- 6-1-1 申請関係書類
- ①平成21年度大学教育推進プログラムテーマA申請書
 - ②同一次審査結果
 - ③平成22年度大学教育推進プログラム申請書
 - ④同一次審査結果
- 6-2-1 ICT戦略大会抄録
- 6-3-1 パワーポイント
- ①出張講義
 - ②シンポジウム
 - ③教員免許更新講習

1. 教育の責任

中村学園大学短期大学部幼児保育学科は九州・山口地区に卒業生の大部分を幼稚園教諭・保育士として供給している。専門就職の比率が極めて高く、また質・量共に幼稚園教諭・保育士の供給源として社会的期待も大きく、一定の評価も得ている。

しかし、幼児教育・保育は効果的・合理的な異議申し立て能力が相対的に低い乳幼児やその保護者を対象としているため、質保障のためには幼稚園教諭・保育士自身がその職務内容と専門性を深く自覚し行動し、点検できることが必要である。また、国際化の進展の中で『乳幼児期より配慮された保育・教育』が個人の成功、ひいては国家発展の基盤となるとの研究成果から国家発展戦略として幼児教育・保育の質が注目されるようになってきている。従って幼稚園教諭・保育士養成課程の質の保障と改善の社会的責任はますます重くなっている。

このような状況下で私は幼稚園教諭・保育士養成校の一教員として過去3年間に以下の科目を担当してきた。主要な教育の課題は教職教養と幼児理解と個人・集団指導の基礎的知識と考え方の教授である。

①中村学園大学短期大学部幼児保育学科

科目名	区分	特徴	開講年度	受講者
幼児指導方法論(講義2単位)	1年前学期	卒業必修、幼保必修	~2011	約200
教育原理A(講義2単位)	1年後学期	卒業必修、幼保必修	~2011	約200
保育・教職実践演習(幼稚園) (演習2単位)	2年後学期	幼保必修	2011	約200
幼児保育基礎セミナー(演習1単位)	1年通年	卒業必修、初年次教育		約200
幼児保育演習(演習1単位)	2年通年	卒業必修、2年ゼミ	2011	約20
基礎演習(演習1単位)	1年後学期	卒業必修、1年ゼミ	~2009	約20
総合演習(演習2単位)	2年通年	卒業必修、2年ゼミ	~2010年	約20

②中村学園大学人間発達学部

科目名	区分	特徴	開講年度	受講者
保育経営論(講義2単位)	4年後学期	幼選択	~2011	変動有
教育方法学(講義2単位)	3年前学期	幼必修	~2011	約20
人間発達論II(講義2単位)	4年前学期	選択	2009	約80
幼児教育課程総論B(講義2単位)	4年前学期	幼必修	2010~2011	約20

③短期大学部合同

科目名	区分	特徴	開講年度	受講者
短期大学部教養講座(講義1単位)	1年後学期	選択、オムニバス	2011	約220

2. 教育の理念

私はこれまでかなり長い時期（大学・大学院生時代、文部官僚時代、九州大学教育学部助手時代、現職時代の前半）自分自身の立ち位置に違和感を感じ続けていた。「本当にやりたくてその位置にいるのか、自分の現在の位置にふさわしい能力を持っているのか、この位置にいていいのか」という問に答えることができなかった。特に現職に就き、進路・学習指導として学生に『職業意識・適性』を問う時に自分にはその資格があるのかと考えが頭の片隅に引っかかっていた。

この悩みを整合する方法として私は二つの方略を実践してきた。その第1は私のコミュニケーション能力の地力の弱さを補うために様々な物理的ツールの使用能力を獲得・活用することであった。第2はその位置ごとに期待されている役割を過敏に意識してやり遂げることで存在価値を証明して居場所を確保するということである。言い換えれば他人の期待に応えることを主目的とした生活だったと思う。このようにして、現職でも各授業の設計と実施、幼稚園教育実習担当としての手配と学生指導、教務委員等の学内運営業務を緻密に設計し、破綻しないシステムとして組み上げて管理することを心がけてきた。

しかし7年前に附属幼稚園園長に就任し、4年間の任期中、養成の成果である幼稚園教諭たち（もちろんこの中には養成課程で私の指導を受けていない者も含まれる）と協働し、その保育の対象である子どもたちと保護者と接する内に一定水準の品質管理を超えてもつといい環境を提供するために私にできることを見つけないとこの思いができてきた。しかし幼稚園教諭でない私は直接子どもたちに手は差し伸べることができない。できることは養成課程の改善であるとの思いが強くなった。更に、3年前から学科主任となり、教育課程の中の1教科を担当し、それを基盤として養成課程の改善を進める立場から養成課程を越えた範囲まで見通したビジョンを構築する事に取り組む事となった。

私は幼稚園教諭・保育士養成課程の教員として学生たちが二つの力を身につけることで幸せな職業生活、ひいては幸せな人生を送って欲しい。その一つは子どもたちに幸せな生活と成長をますます困難化する社会の中で保障できるより高度な保育の専門能力である。幼稚園教諭・保育士が現場で実践する保育は養護と教育を一体的に提供するものとされている。養護とは一人の人間としての生活を保障することであり、幼稚園・保育園における教育とは個人的・集团的成長を意図的・計画的に促す営みを行うことである事を再度深く学生たちに伝えたい。そしてもう一つはその能力を困難を極める現場で遺憾なく発揮できるための基盤となる力である。

幼稚園教諭・保育士の養成における私の教育実践の背景にある体験と思考そして現状認識を基に、学生指導に於いて以下の5項目を大切にしている。更に、短期大学における幼稚園教諭・保育士養成の構造的限界を突破する方策として第6の項目を付け加える。これらが私の教育理念の根幹を構成するものであり、これを基に質の高い幼稚園教諭・保育士を養成し、社会に貢献したい。

1) 期待する学生像

- ① コミュニケーション能力の不足を技術で補える。
- ② 教育をシステムと捉えて最適化できる。
- ③ 態度(価値と規範)を中心に据えて行動できる。
- ④ 高度な専門性を内実化するために当事者性を持って学習に臨み行動変容する。

2) 学生の学習の成功を支援するための私の教育上の配慮

教育の組み立てに於いて現代の学生の特性を考慮する。

3) 養成課程の範囲を越えた教育の理念実現のための活動

高大連携・入学前教育でスタートラインをUPすることで間接的に学生を支援する。

3. 教育の方法

教育の理念で取り上げた6項目の方法としての具体的内容と意義を紹介する。

- ① コミュニケーション能力の不足を技術で補える。

多くの学生は対人コミュニケーションが低いと認識し、不安感を持っている。しかし、その不安感や未熟さは彼ら・彼女らの20年近い人生の中で培われたもので、短期間に地力を上げて遅くなることはできない。物的・空間的環境構成によって実力が外的に強化されることを具体例で示して発想を転換し、実践できる力を身につけて欲しい。

- ② 教育をシステムと捉えて最適化できる。

学生は現実を個々の事象の積み重ねとして理解しがちである。個々人の思いの結果が事象となるが各事象は時に思いとは別に意味を構成し、その意味が連環していくことに思いが至らない。教育は個々人の営為と価値観が大部分を占めているように一見見えながらも構造が重要な決定を下す営みであることに特徴がある。学生には思いを大切にしながらもその構造に目を向けて教育を構造的に捉えて最適化するという発想を身につけてもらいたい。

- ③ 態度(価値と規範)を中心に据えて行動できる。

どの専門分野においてもそれを構成する知識・技術・態度(価値と規範)が存在し、そのバランスと関係性が適切に保たれないと社会に有為な専門職者としての貢献はできない。態度(価値と規範)が適切に形成されないと知識・技術の誤用や悪用が危惧される。特に幼稚園教諭・保育士は対象である子どもに対して優位性を構造的に持つので、態度(価値と規範)の習得とそれとの適切な関係性の中での知識・技術の習得を基本とて欲しい。

- ④ 高度な専門性を内実化するために当事者性を持って学習に臨み行動変容する。

本学科の主たる教育目的は幼稚園・保育園で働く実践者としての幼稚園教諭・保育士養成であり、教育・保育に関する知識・技術の教養的な理解ではない。従って、授業における知識技術の習得においては科学性・客観性を確保すると共に、『当事者性』を学生が意識して行動変容に繋がる体験として自分の中で整理して欲しい。

教育の組み立てに於いて現代の学生の特性を考慮する。

近年の入学者の性向と学習上の問題点を踏まえて教育の構成をしなくては学生たちに伝わらない。私が考える近年の学生の特徴は、『学習活動の効率化の過剰要求』『学習活動の消費化』『実践偏重でありながら体験の表層的理解』『表面的な従順さと素直さとなって現れる依存体質』『自己肯定感の薄さと社会的未成熟。』である。これは問題点でもあるが、対応次第でツールになる側面もある。

高大連携・入学前教育によるスタートラインをUPする。

幼稚園教諭・保育士の担当分野の範囲は分かりやすく説明すると小学校の全科に保健・栄養を加えたものということができる。そのため入学後の学習量が他の分野の養成課程と比べて過大となっていることが詰め込み教育の容認や質保障の厳格化の足枷となっている。

この問題への対応はカリキュラムの大部分が法制度によって固定されている現状では学内の自助努力には限界があり、学外の活動に活路を求めることが効果的であると考え二つの実践を積み重ねてきた。また、これは社会に蔓延する『保育と養護の同一視』の解消を少しでも促すための広報活動の側面も持っている。

この具体的実践については高校生を対象とした者なのでここでは内容に振れず、教育改善のための活動で説明する。

4. 教育の実践

※特定の授業でのみ行っているものには科目名を付している。

1) 教育の理念①②を実現する実践として

初回の授業及び必要に応じて授業運営の約束事や環境構成を説明する際に必ず理論的背景を説明してそれを自己の保育活動の際にどう生かせるかを伝える。

(具体的行為としては)

- ・ 始業の挨拶の徹底
- ・ 始業ベルの前に教室に入室
- ・ 窮屈にならない範囲で教室前方に着席するように徹底指導
- ・ 机間巡視・指導
- ・ 巡視時以外は極力学生に背中を見せない姿勢
- ・ 教室の構造上の問題点の指摘とその回避策の紹介
- ・ 大人数授業ではワイヤレスマイク選択
- ・ パワーポイントの使用における無線コントローラー使用

2) 教育の理念③を実現する実践として

毎回考察／出欠・質問用紙を配布し授業の最後に回収し、原則として次回の授業で質問等にコメントをする。その際大胆な切り口で回答することで学生の心を揺さぶる。

3) 教育の理念④を実現する実践として

① 学生に指導計画作成と模擬保育を課し、その実際風景を撮影し、DVD-R で複製して配布することで学生の省察の材料としている。【教育方法学・幼児教育課程総論B】

② 毎回の授業記録(画像を含む)を輪番で学生に作成させて配布している。卒業時にゼミ活動の全記録(毎回の授業記録、発表会の映像、発表資料の画像等)を DVD-R、CD-R にまとめて配布している。【幼児保育演習】

4) 教育の理念⑤を実現する実践として

映像資料を積極的に活用する。(具体的なエビデンスに基づく分かりやすい説明)

入園式と卒園式、3歳児の4月と翌年の2月など対比できる映像を上映することで学生の気づきを促している。【幼児指導方法論(比較の視点の提供)】

全学生が体を動かせる場面を可能な限り取り入れる。(学生の生理に配慮)

5. 教育の成果

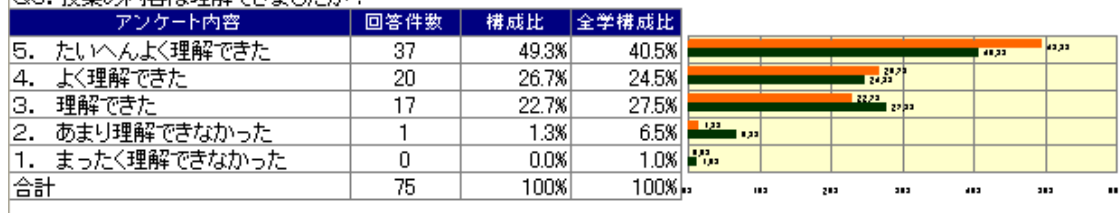
1) 学生による授業評価

平成23年度の大学3年生を対象とした教育方法学の結果を見ると学生の「理解度」、「満足度」、「取り組み度」共に平均より高くなっていると共に項目別では「考える力」「視野」で高い評価を受けている。

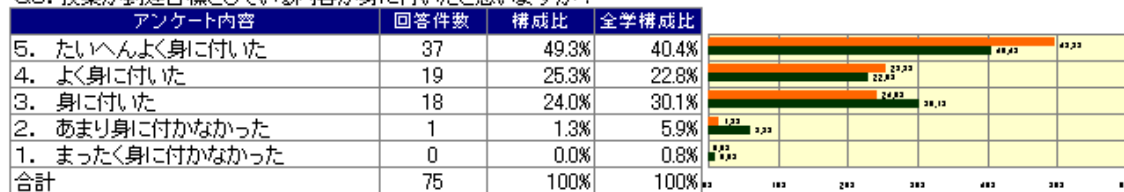
Q2. 1回の授業に対して、平均してどのくらい授業外学習(予習・復習)を行いましたか？



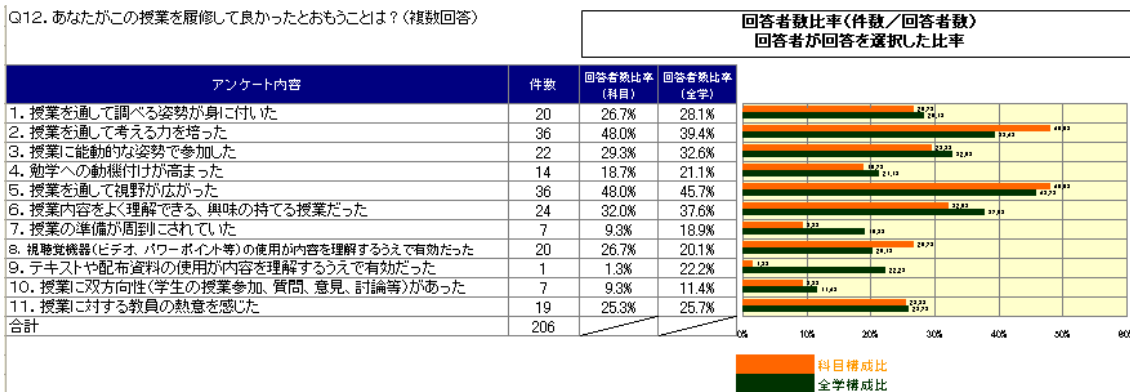
Q5. 授業の内容は理解できましたか？



Q6. 授業が到達目標としている内容が身に付いたと思いますか？



Q12. あなたがこの授業を履修して良かったとおもうことは？(複数回答)



2) 同僚による授業参観のコメント

学生の授業評価が高い教育方法学も低い教育原理Aともに特に際だった意見は頂いていない。添付資料で2例を示しているが、過去2年間で10人の授業参観を受けている。

3) 学生の授業考察(まとめ)の例

添付資料に示しているように私が考案した考察用紙を活用して分かりやすい授業内容の整理を行っている学生が多く見られる。

4) 学生のコメント

毎回の授業のコメントから学生の状況と意識の変化の典型的な例を紹介する。

「自分の中で保育者としての自覚が入学時よりも変わってきたと最近思います。」

「学ぶというのは義務のような気がしていたのですが、こうして教育方法を知っていくと学ぶことってゲーム感覚というか習得していくことが自分を豊かにする。まさに「品性の陶冶」という感じがして、おもしろく思いました。」

「指導案を再度考察していく中でみんなの発表や今までの講義内容を思い出しながら考えていくと“もっとこうしたい”“もっとこうしたらわかりやすいかも”と思える部分が出てきました。学びが増えていることを実感することができました。」

「他の授業でも習ったことが出てきて、すべてつながっているのだと思いました。」

「…あと、先生が近くにきて少し緊張しました。(笑い)」

「嫌いだからしかるのではなく、大好きだからしかるというところにとっても感動しました。」

6. 教育改善のための取り組み

1) 授業改善のための取り組み

私は2009年3月まで4年間附属幼稚園園長を兼任していた。兼任とは言え少子化時代の園経営のためには多大な努力が必要で、正直に言ってこの4年間は教育研究の改善・進展にかける時間は少なかったと思う。園長任期満了後は学科の運営責任者に指名され、一教員・研究者としての教育研究の再開と共に学科全体の生き残りのための改革・改善に取り組む事となった。その材料を得る方法として①日本保育学会、日本比較教育学会、九州教育学会の大会に参加すること、②文部科学省のGP事業に申請すること(2009大学教育推進プログラムテーマA、2010大学教育推進プログラムの2年連続でヒアリングまで進んだが採択には至らなかった。)、③2011年度には「ポートフォリオLMS事例紹介 in 博多(2011/7/22)」「神奈川大学高大連携協議会フォーラム(2011/8/5)」「九州地区一般教育研究協議会(2011/9/10)」「ティーチングポートフォリオの導入・活用シンポジウム in 佐賀大学(2011/11/18)」「私立大学情報教育協会事業活動報告交流会(2011/12/14)」「現代保育研究所研修会(2012/2/18)」等に参加した。

これらの成果を元に授業で使う「出欠用感想用紙」を「考察／出欠・質問用紙」に改善、教育原理の授業内容の大幅見直しと教材開発、学内プロジェクト研究として「保育者養成校におけるポートフォリオシステムを活用した効果的な初年次教育のあり方に関する研究」を2010年度から申請して現在学科教員と取り組んでいる。

2) その他の学内の取り組み

①入学前教育の取り組み (教育の理念⑥関連 高大連携関係)

2009年から入学予定の高校生に対して行っていた『入学前課題』刷新し、Web、通信教育、スクーリングを組み合わせた入学前教育を推薦入試合格者に対しては4ヶ月間、試験入試合格者に対しては約1ヶ月間実施することとした。この成果は、私立大学情報教育協会のICT戦略大会(2011/9/8)で2009年度から開始した入学前教育の取り組みを「ブレンディッドラーニングによる入学前教育の取り組み」として発表した。(共同発表)

②学科全体としての取り組み

2011年度幼児保育学科FD研修会の総合テーマを「学外実習」として、年間9回開催し、幼稚園教育実習、保育所実習、施設実習とその事前事後指導を中心として学科全体の情報の共有と深化及び制度改革の方向付けと決定を行った。

3) 学外の教育活動への取り組み (教育の理念⑥関連 高大連携関係)

高校生を中心に出張講義を行い、幼児教育の魅力、幼稚園教諭・保育士の職務と力量、そして中等教育の内容との連続性等について広く周知に努めることで養成教育を下支えする活動を展開した。2011年度の実績は以下の通りである。

- ① 高等学校への出張講義 6 回 受講者は 10 名～30 名程度 本学は約 100 名
日田三隈高校(2011/6/14)、三養基高校(2011/7/11)、福岡女子高校(2011/7/19)、
須恵高校(2011/8/4)、日田高校(2011/9/14)、本学オープンキャンパス(2011/8/20)
- ② 福岡医療技術短期大学の GP 事業への協力(外部講師)(2011/10/21) 受講者 80 名
- ③ 第 26 回全九州私立幼稚園 PTA 研修会福岡大会 (2011/9/7) 参加者 400 名
シンポジウムコーディネーター
- ④ 西日本短期大学保育学科非常勤講師「教育原理」2010 年度前学期 受講者 80 名
- ⑤ 教員免許更新講習会 必修分野「教育の最新事情」分担 3 時間(2011/8/5) 受講者 80 名

7. 今後の目標

1) 短期の目標

一教員として担当科目について不断の授業改善に勤めなければならない。

- ・ 提示教材のパワーポイント化していない授業のパワーポイント化とビジュアル化
(幼児指導方法論)
- ・ 授業のプロジェクト学習型への修正の試行(幼児指導方法論)
- ・ 2012 年度から担当する大学院授業の編成と充実(教育学特論Ⅴ、保育経営特論)
- ・ 授業実践・改善のエビデンスの計画的蓄積(全科目)

学科主任として初年次教育改革の第 2 段階を実現する。

- ・ 幼児保育基礎セミナーにプロジェクト学習型への移行とポートフォリオの導入

2) 長期(2 年間)の目標

学科主任として職務は学生に身につけさせた二つの力を組織的に養成できる体制作りである。特に専門性の向上の為の教育内容の再検討と全体像の再編、学生の動機付けの強化である。

- ・ 全教員によるシラバスの検討と修正・調整(学科 FD テーマ)
- ・ カリキュラム構造の再構築と共有化
- ・ 学生のシームレスな学習履歴の構築と活用体制の確立(プロジェクト研究課題)